令和元年度福島県立美術館運営協議会議事録

- 1 開催日時 令和2年3月6日(金) 10:30～11:50
- 2 開催場所 県立美術館2階会議室
- 3 委員数 10名
- 4 出席委員数 7名
- 5 議 題

- (1) 令和元年度事業実施の概要について
 - ア 令和元年度事業実施の状況について
 - イ 観覧者数等の状況について
- (2) 令和2年度事業について
 - ア 令和2年度工事予定について
 - イ 令和2年度事業計画(案)の概要等について
- (3) その他(福島県立美術館の運営等について)

6 議 事

福島県立美術館長挨拶

日頃から当館の活動にご理解ご協力をいただき深く感謝申し上げます。今年度は伊藤若冲展などの復興支援活動を始め、福島県と結びつきを持つ最先端の現代美術作家の展覧会、関根正二など当館の収蔵作家の再評価につながる展示活動、豊かな実績を重ねてきた復興との連携による教育普及活動を多彩に展開し、地域に根ざしながらも全国への発信力のある質の高い美術館活動に取り組んできたが、福島県の芸術文化の復興、振興にも大きく貢献できたのではと考えている。本日は当館の活動についての理解を深めていただき、率直な意見を承れば幸いである。

出席委員及び事務局職員の紹介

杉昭重会長が、議長として議事を進行した。

(1) 令和元年度事業実施の概要について

令和元年度事業実施の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【齋藤美保子委員】：年間観覧券の購入件数に関連して、年間観覧券は常設展だけでなく企画展も何度でも観覧できるのか。

- 【事務局】：何度でも観覧いただける。
- 【齋藤美保子委員】：何度でも観覧できるのならば非常にお得なのでもっと活用できないか、高校生が1件というのは寂しい感じがする。自分も宣伝してみたいと思う。
- 【齋藤勝正委員】：寄贈作品の中には大変価値のある作品もあるが、新聞等に掲載されたような記憶がない。これらの寄贈については記者発表などされているのか。
- 【事務局】：現在収蔵に向けた手続き中であり、まだ公表されていない。
- 【齋藤勝正委員】：美術館にこういうものが入ったということを積極的に公表していった方がよい。
- 【杉 昭重委員】：若冲展は大変好評だったが、観覧者の皆さんに快適に見えていただけよう、駐車場やトイレなど改善したことはあるのか。
- 【事務局】：駐車場は200台とキャパが限られているため、基本的には公共交通機関を利用いただくよう実行委員会として周知した。警察との間でどこまで駐車場待ちの車列が許容されるかなど事前調整を行ったが、まずは公共交通機関の利用について広報を強化した。また、並んだ車には、臨時駐車場として協力いただいた場所を紙で配布し、並ぶストレスが軽減できるよう対応した。トイレについては、エントランスで入場待ちをしている間に使用するよう案内し、列から離れても元の位置に戻れるよう対応を工夫することで、苦情についてはある程度抑えられたと考えている。
- 【舟木藤弘委員】：確か前回の若冲展の際は和式トイレしかなかったが、今回は洋式トイレに改修されていたのでよかった。また、若冲展のボランティアについて友の会で対応したが、県外から来た人向けに観光案内用の地図を美術館が用意してフォローしてくれたので、県外の方にきちんと案内することができてよかった。
- 【館 長】：10万人クラスの大型展覧会を開催すると、やはりいろいろな問題が生じてくる。これまで何回かこの規模の展覧会を実施してきた中で、我々も反省を踏まえながら対策を検討し改善してきた。個々の課題はまだまだあると思うが、こういう経験を積んでいくことで来館された皆さんに快適に鑑賞していただけるよう成長してきたのではないかと思う。
- 【山口 功委員】：教育関係の立場から、子どもたちも先生方もお世話になっている。美術の裾野を広げる企画をたくさんやっていただき、ありがたいと考え

ている。これだけ準備した企画なのにこれしか参加者がいなかったのかということもあると思うが、地道にやっていくことが大事なので、ワークショップや創作プログラムなどの事業は今後も続けていただきたい。二つ聞きたいことがある。巡回展は予算の関係でやらなくなったのか。もう一つは、図書館との連携事業のように、漫画やアニメや絵本作家の原画展などの柔らかい企画を取り入れると美術館の敷居も低くなり、親子連れも足を運びやすくなるかと思うが、そういった企画についての美術館の方針を伺いたい。

【館長】：巡回展について、この美術館はコレクションを基礎とし、内外の近現代美術の作家を紹介するという方針でやってきた。当館は、いわさきちひろ展を全国の美術館に先駆けて初めて美術館というところで開催したという実績がある。子どもさんの楽しみを倍増させるようなそういった視点は忘れずやっていきたいと考えているので、ご指摘を参考にさせていただく。アートの領域は広く、今年度実施したやなぎみわ展のような超現代美術的なものもあれば、漫画やアニメも含めた様々な表現様式や媒体があるので、美術館としてどういった形で皆さんにお届けできるか考えながら、皆さんのご要望に応えていきたい。

(2) 令和2年度事業について

令和2年度工事等予定及び令和2年度度事業計画（案）の概要について、事務局が資料に基づき説明を行った。

《質疑応答》

【齋藤勝正委員】：収集事業について、美術品取得基金での購入ができない状況ということだが、美術館の大きな役割の一つが美術品収集である。今後の見通し、方針はどうか。

【事務局】：美術品取得基金の設立の目的は、欲しい美術品を速やかに購入することにあるが、美術品購入後は現金を基金に戻す必要がある。現在の状況としては基金に購入できるだけの現金がない。現金を増やせるよう予算要求をしてきたところであるが、今年度は久しぶりに基金に現金を戻すことができた。昨年度の当協議会の場において委員から収集は必要だとのご指摘を受け、一歩前進できたところもあるので、今後も取得できるよう関係課とともに進めていきたいと考えている。

【星 眞智子委員】：移動展が喜多方に来るということで楽しみにしている。せっかく近くで収蔵品が見られるチャンスなので、会津管内の小中高校に移動展

をうまくPRし、美術の時間などで足を向けられるよう考えてもらいたい。

【事務局】：具体的にはこれから企画を詰めていくことになるが、喜多方市美術館の方でもアートカードの活用など子どもたちを巻き込んだ企画を考えているようなので、ご意見いただいたように進めていきたい。

【坂本節子委員】：震災からもうすぐ10年になる。子どもたちは大事な感性を養う幼児期・学童期に震災で逃げ惑い、自然から遠ざけられて育ってきているのが現実である。今度はコロナウイルスによって、先の見えない、おびえなければならぬ状況にあり、子どもたちの大事な感性を磨くことが置き去りにされてしまっているように感じる。子どもたちを巻き込んだワークショップやアートカードを使った企画などをどんどん増やして欲しい。

【杉 昭重委員】：「近現代版画の名作展」について、オリンピックそのものがコロナウイルスでどうなってしまかわからない状況にあるが、美術館もオリンピックの盛り上げに一役買っているということで、オリンピックとの関連をぜひPRして欲しい。

【齋藤美保子委員】：美連協の美術館大賞を受賞したとか、優秀カタログ賞を受賞したということはとても素晴らしいことである。次年度のジャポニズム展、大津絵展なども、センスのいい展覧会だと期待している。質の高い企画展をすると県内だけでなく遠方からも観覧者が来ると思うが、新型コロナウイルスへの対策はどのようなことを考えているのか。

【事務局】：基本的には消毒の徹底である。清掃は日頃からかなり丁寧にやっているが、消毒の強化やマスクの着用なども求めていくことになる。入場者が多くなれば、入場制限や間隔をあけるなど対策を考えていかなければならないと考えている。

【館 長】：できるだけたくさんの方に作品を見ていただきたいと考えているが、こういった状況にどう戦っていくか、苦渋の判断をしなければならない可能性もある。極力問題が起きないように、なおかつ、美術館の使命を果たしていきたいという気持ちである。

【齋藤美保子委員】：大変な時だからこそ美術館に行って癒やされるという部分もあるので、ぜひ頑張ってください。

【舟木藤弘委員】：友の会のことであるが、今年度はバザーの収益金でポータブルマイクセットを寄贈した。このバザーが例年盛況であるので、今後も引き続き収益金での寄贈を行っていききたいと考えている。

(3) その他（福島県立美術館の運営等について）

【齋藤勝正委員】：館長の人事異動について新聞でみて驚いた。美術館の館長は専門知識をお持ちの方が望ましいと思う。

【事務局】：県の人事についてはこの場にはなじまないのでコメントは控えさせていただきます。

【議長】：これで議事を終了する。本日、委員の皆様からいただきました貴重な意見が、県立美術館の運営に適切に反映されることを期待したい。

以上をもって、令和元年度福島県立美術館運営協議会を午前11時50分に閉会した。